

- 「こどもまんなか社会」の実現のためには、不安や悩みがあり、つらい思いをしているこどもたちが思いを打ち明けやすい環境を、こどもの目線に立って作り、そして、不安や悩みに寄り添い、それらを解消していくことが重要。
- このため、令和6年11月に庁内の若手職員や自治体などの現場経験者等を中心とした「**こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチーム**」が発足。こどもが安心して悩みを打ち明けられる環境づくりの課題や、大人に求められる対応を明らかにするため、こどもや相談・支援団体、自治体など、のべ27の団体等と意見交換等を行った。
- 本中間報告では、令和7年3月までにプロジェクトチームが行った意見交換等の内容をまとめるとともに、これからのプロジェクトチームの取組の方向性を整理。

こどもの悩みを受け止める場に関するプロジェクトチームにおける意見交換等実績一覧 (プロジェクトチーム発足後～令和7年3月末)

令和6年
11月

- ・ 一般社団法人 青草の原（れもんハウス）
- ・ 特定非営利活動法人 バディチーム
- ・ 特定非営利活動法人 BONDプロジェクト
- ・ 一般社団法人 merry attic

12月

- ・ 一般社団法人 ここから未来
- ・ 寝屋川市危機管理部監察課
- ・ 名古屋市／名古屋市子ども・若者総合相談センター※
- ・ 一般社団法人 草の根ささえあいプロジェクト※
- ・ 認定特定非営利活動法人 チャイルドライン 支援センター※
- ・ 認定特定非営利活動法人 カタリバ



※の団体等は三原こども政策担当大臣との意見交換等を実施。

令和7年
1月

- ・ 一般社団法人 彩の国こども若者支援ネットワーク
- ・ 埼玉県福祉部社会福祉課 医療保護・生活困窮者支援担当
- ・ 認定特定非営利活動法人 3keys（ユースセンター3）
- ・ 一般社団法人 てのひら
- ・ 特定非営利活動法人 サンカクシャ※
- ・ 茨城県のいじめ問題を考える会 代表
- ・ 公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

2月

- ・ 特定非営利活動 法人ウィーズ
- ・ 特定非営利活動 法人パノラマ

3月

- ・ 日野市子ども包括支援センター みらいく
- ・ 関東学院中学校高等学校※
- ・ 宮崎県児童相談所
- ・ 長野日本大学高校1年生ほか※
- ・ 小中学生のこどもたち10名※

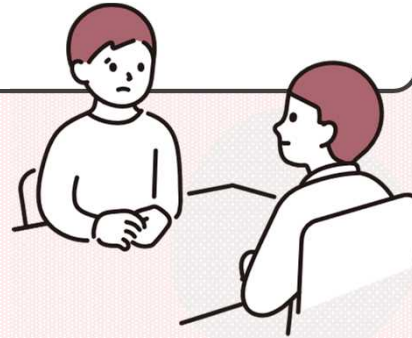


こどもたちの声

こどもたちの声

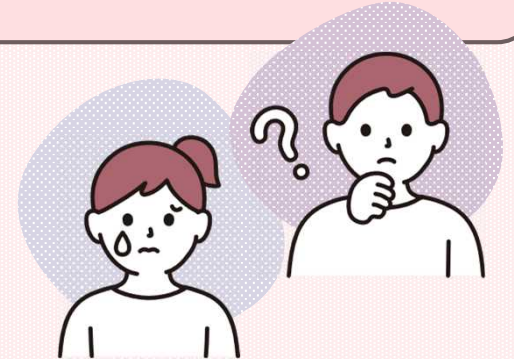
相談しやすい環境

- 相談してある程度すっきりしたところで、**別の話題の話をしたり、一緒に遊んだりすることで、嫌な気持ちや悩みを忘れられる**こともある。
- せまい静かな部屋で話すより、何かしている時や、遊んだり運動したりして仲良くなってリラックスした時の**何気ない会話の方が相談できることが多い**と思う。



こどもたちの声から考えられること

こどもが相談や気持ちの切り替えをしやすいするためには、相談受付のみを念頭に対応するのではなく、**こどもがリラックスできるような環境や仕掛けをつくる**などの工夫が求められる。



相談相手

- 家族や担任の先生など、**日頃から関わりがあって、関係性ができている人の方が相談しやすい**と感じる。その一方で、**関係性が強いと、逆に迷惑をかけたくないという気持ちも生まれる**。
- 大事なことほど、誰にも話さず自分の中で整理したい**と思う。**自分のことは自分で解決したい**ので、相談しないこともある。
- 相談する相手は、話を聴いてくれるなら誰でもいい場合もある、そうではない場合もある**。前者はそれほど親しくない友達や知人でもいいかもしれないが、後者の場合、相談内容について理解してくれたり、解決策を一緒に考えてくれたりする人が適任だと思う。

悩みの内容や深刻度等に応じて、関係性の強い人・そうでない人のどちらに相談したいか（あるいは自分自身の中で気持ちを整理したいのか）、**こどもによって希望は様々**である。

こどもたちの声

こどもたちの声

相談相手に求める姿勢

- まずきちんと話を聴き、共感してくれることが1番安心する。
- 相談者のことを笑ったり否定したりせず、しっかり相談者に向き合って理解しようと寄り添ってほしい。
- 相談内容に対して、解決方法を示してほしい。こどもの悩みと一括りにせず、専門的な知識などのアドバイスをもらえることが望ましい。
- 相談開始直後は感情がたかぶっているので、まずは共感や励ましの言葉をもらい、落ち着いたところでアドバイスがもらえるといい。
- 友人に相談したことが周囲にばらされると、裏切られた気持ちになる。
- 自分の考えを整理するという点でも、誰かに話すことはとても重要だが、相手が信頼できるか、秘密は本当に守られるのか、相手が先入観を持たないことなどが必要。

相談窓口

- カウンセリング等は、授業と時間が被ったりするから行きづらい。相談の時間帯や場所など気にせず相談できるようになるといい。
- 相談していることが親にバレたくない。ウェブサイトでもっと気軽に相談できるようにしてほしい。
- 夜に相談できる窓口は電話対応のところが多く、自分の部屋がない人には使いづらい。チャット形式で24時間対応してくれる窓口が増えてほしい。
- SNS相談は、普段の生活では関係のない人が相談相手なので、安心して相談しやすい。
- 相談相手がAIだと、どんな内容でも受け止めてくれるから話しやすい。

こどもたちの声から考えられること

こどもが相談相手に求める姿勢としては、

- ✓ 相談者に向き合い寄り添うこと
- ✓ 相談内容を秘密にすること等が挙げられる。

また、悩みの内容や状況に応じ、

- ✓ まずは話を聴いて、共感してほしい場合や、
- ✓ 相談した内容に対し、解決に向けた助言がほしい場合等がある。



こどもが相談窓口に求めていることは、

- ✓ 時間帯や場所を気にせず相談できること
 - ✓ SNSやAIなど、気軽に相談できる手段であること
- など、こどもの置かれた状況に応じた使い勝手の良さである。

相談・支援団体等からの意見

子どもと接する中で確認できた子どもの思い

相談相手に求める姿勢

- 最後まで話を聴いてほしい。一見他愛のないような内容も受け止めてほしい。
- 聴いてくれる人がいるだけで安心する。話せるだけで、心が軽くなる。
- どこかで悩みを吐露したいが、返事が来るのが怖い場合もある。
- 自分ではどうすることもできない課題を解決してほしい。どうすればよいか教えてほしい。
- 相談内容を言葉にすることが難しく、相手にうまく伝えられない。
- 相談していることを知られたくない。相談することが恥ずかしい。

大人への相談

- 周りの大人に相談するのは簡単そうでハードルが高い。
- 大人は悩みを聴いてくれない。安心できる大人はどこにいるのか教えてほしい。
- いじめの被害を伝えても、遊びの延長やからかいとして過小評価されてしまうことがある。

居場所

- 心のよりどころ、居場所が一つでも欲しい。
- 一人でいたい。安心できる家のような場所が欲しい。
- 親が頼れない状況で、若者が一人で生きるのは難しい。

子どもの思いから考えられること

悩みの内容や状況に応じ、
✓ **まずは話を聴いて、共感してほしい場合や、**
✓ **相談した内容に対し、解決に向けた助言がほしい場合**
等がある。
また、相談内容がうまく伝えられない場合や、相談することに恥ずかしさを感じる場合もある。

周囲の大人に悩みを受け止めてもらえなかった過去の経験等から、**大人に相談することにハードルを感じている場合がある。**

不安や悩みに直面する子ども・若者にとっては、相談受付だけでなく、**安心できる居場所も必要**である。



相談・支援団体等からの意見

こどもの悩みを受け止める際の留意点等

こどもと接する際の姿勢

- こどもの権利を擁護することを徹底する（守られるべき・尊重されるべき存在であることの認知）。
- 大人の過度な介入はこどもの自立を阻害することがある。こどもたちが自分のペースで支援を受けられることが重要。
- こども自身に変化があるかどうかは、それぞれの時間・タイミングがある。変化を求めすぎない。

相談を受け止める姿勢

- 誰もが利用できて、バレるという感覚を持たない居場所を作る。
- 秘匿性を確保する。
- こどもたちに多様な背景があることや、深刻な悩みを持っている可能性があることも踏まえた柔軟な対応が必要。
- 「相談してくれてありがとう」と感謝を伝え、勇気づけをする。
- 初めにメンタルケアを行う。その後、意欲の回復のためのアプローチを行っている。

こどもと大人の関係

- 家や学校以外に頼れる大人が必要。こどもに選択肢があることが大事。
- 時間をかけて「信頼貯金」を貯め、関係を築き、相談してくれる体制を築く。
- 学校任せにせず、地域や福祉関係も含め、様々な大人が関わることで見守りの体制を構築することが重要。
- 何かあってからではなく、日ごろから目を配るなど予防的支援が必要。

留意点等から考えられること

日頃からこどもを一人の人間として尊重し、こどものペースを大切にしながら接することが求められる。



相談を受け止める際の姿勢としては、こどもの状況等に応じた柔軟な対応を前提に、

- ✓ 秘匿性の確保
- ✓ まずは相談したこと自体をねぎらうなど、こどもの気持ちに寄り添うこと等が求められる。

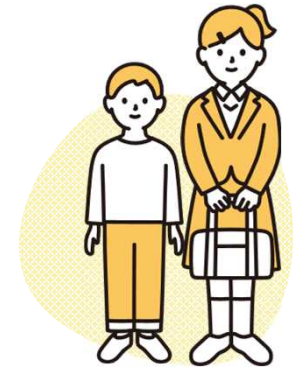
こどもの悩みを受け止める体制を構築するためには、

- ✓ 家や学校以外にも様々な大人が日頃からこどもと関わり、見守る体制をつくることで、こどもが頼れる相手の選択肢をつくること求められる。

こどもの皆さん、大人の皆さん、社会に伝えたいこと

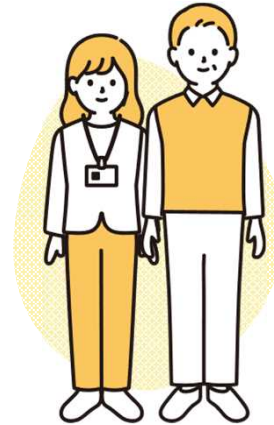
こどもの皆さんへ

- 相談することは悪いことでも、恥ずかしいことでもない
- 味方になってくれる大人はきつという、相談できる相手は親や先生だけではない
- 友達から相談されたときは秘密を守る・相手のことを考える
受け止めきれないときは周囲の大人に相談を



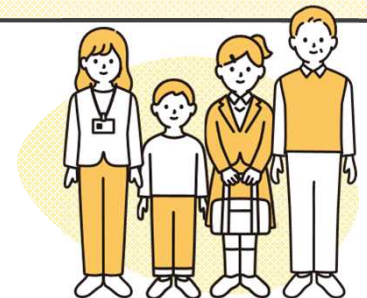
大人の皆さんへ

- まず耳を傾ける、こどものサインにアンテナを張る
- こどもを一人の人間として尊重する
- こどもの希望を確認し、こどものタイミングを大切に
- 秘密は守る



社会へ

- 身近な大人一人一人の行動で、善意の輪を地域に広げる
- 地域に信頼できる大人を増やし、安心できる居場所をつくる

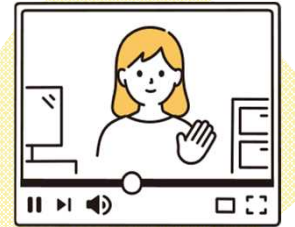


今後の取組

- 令和6年11月のプロジェクトチーム発足以降、令和7年3月までにこどもや、こどもの相談・支援団体等と意見交換等を重ね、こども自身の思いや、相談・支援者団体等がこどもと接する際に留意している点等の知見を得ることができた。
- 令和7年度以降も、こどもの悩み相談に関する国内外の先行研究（文献・調査）を収集し、効果や課題等を整理するなど更に幅広く実態の把握等を行うとともに、こどもや周囲の大人等に対して積極的・効果的な広報を行っていく。
- 特にいじめ・不登校・小中高生の自殺の件数が過去最多、児童虐待相談対応件数も依然として多くなっており、早急な対策が求められる中、明らかになった成果については速やかに発信していく。

アクション1：こどもや周囲の大人等への働きかけ

- こどもが悩みを打ち明けられる環境づくりに向けて、**民間団体等と連携しながら、こどもや周囲の大人等に対する積極的・効果的な広報・働きかけを実施**。実施内容については、こども・若者の意見や有識者からの助言等を踏まえて決定していく。
- こどもの悩みに関するイベントの開催や、SNS等を活用したデジタル広告の実施
- こどもから相談を受けた際の寄り添い方や適切な支援機関につなげるなどの具体的な対応方法に関する大人の理解が深まるよう、座談会やシンポジウムの開催 等
- **中間報告でまとめた成果は、上記を待たず、本年夏を目途に、こどもの周りにいる大人に伝えたいことなどを一定の成果として発出する予定**



アクション2：実態把握の推進

- 官民の相談窓口の実態と傾向を把握するため、**地方公共団体や民間団体を対象とした全国的なアンケート調査を実施**
 - 全国をブロック別に分けて、**6～22歳のこども（悩みを相談する側）と、こどもに関わる大人（悩みを受け止める側）を対象としたアンケート調査及びヒアリング調査**を実施。調査の内容については、これまでの意見交換等の結果も参考にしつつ、悩み相談に関するこどもと大人の認識のギャップを埋めていく観点から、先行研究の整理結果や、有識者からの助言を踏まえて決定していく。
- ➔ これらの**実態把握の結果を、こどもの悩みの受け止め方に関する理解増進につなげていく**

